

ちいきの見守り冊子 vo.1+2



KONAN
SHAKYO

見守りにつながる地域の取り組み



見守りにつながるって？

connection

近年、少子高齢化の進行や経済状況の変化を受け、福祉課題の「複雑化・多様化」が進み、社会的孤立や孤独死等の社会的な問題が生まれています。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、平時から地域の人々と関わりを持ち、お互いにつながり、支え合うことが求められています。

そのような中、市内各地で地域のつながりを意識した取り組みが行われています。

本冊子は、地域の活動の「つながり」や「見守りの機能」に着目し紹介することで、地域での住民同士の活動に一人でも多くの方に関心を持ってもらうことを目的に作成します。

安良

YASURA

住民で協力して農業！？ 安良ふれあい農園から生まれるつながり



活動紹介動画
YouTubeで公開中

content

安良区では、住民やふくしの専門職などで構成される安良区連絡協議会があり、「5年後も、10年後も住みやすい安良を目指して」をテーマに地域の困りごと等に対して取り組んでいます。

農業からはじまるつながり

安良区協議会にて「近くの畑を使って畑をやりたい人と一緒に農作業体験はできないか」、「野菜や果物の収穫祭で住民が集まる機会にならないか」などの声をきっかけに、近くの畑（200坪）を活用して地域の方が集える「安良ふれあい農園」を住民と準備。

野菜は参加者の話し合いで子どもが好きな野菜や果物として、トウモロコシ、すいか、さつまいもを選択し、畝づくりや植え付け、収穫祭と農作業の工程自体をイベントに置き換え、地域でのつながりづくりに向けて取り組みました。



▲安良区連絡協議会内で「頑張ろうポーズ」



▲さつまいもの苗植え、みんなで実施！

子どもから高齢者、畑を通じて関わる

畝づくりでは鍬の使い方を90代のスタッフが子どもに教えたり、野菜の収穫方法を農家から学んだり、これまで関わりのなかった世代が、ふれあい農園という、共通の活動をするにより、会話や関わりが生まれていました。



▲活動日に続々と見える参加者



活動の過程で生まれるつながり！？

安良ふれあい農園を進めるにあたり、①畑の管理、②チラシ作成、③地域回覧や参加者や協力者への呼びかけなどを進める中、スタッフから、「安良区の地域をつなぐためにイベントや収穫祭をしてきた。それぞれの当日も大切だけど、それに至るまでの過程の人との関わりや時間こそが地域のつながりが生まれるときだと感じたな」との声がありました。

社協職員が発見！

見守り機能の
キラッとポイント

スタッフの振り返りの声から。

「あいさつが増えたまちになった」



安良ふれあい農園で畑作業をしていると「今日も暑いね。収穫はいつ？」、「次は何を植えるの？楽しみにしているね」、「最近、〇〇さん元気？」などの会話が生まれていました。

地域のつながりづくりを目的にはじめた活動が、その生まれたつながりによって、住民同士、顔が見える関係性となり、見守りの機能にもつながっています。

宮後中

miyaushironaka

買い物支援だけじゃない！？ 買い物から生まれるつながり



活動紹介動画
YouTubeで公開中

0:00:02

content

宮後中区では、区民の方を対象に区民の方が運転、付き添いをする福祉車両で、市内の大型スーパーに送迎する「宮中いきいきショッピング」を行っています。

買い物から生まれるつながり

宮後中区は近くにスーパーがなく、買い物に困りやすい地域という認識が住民の中に広く根付いていました。そんな中、地域包括支援センター主催の「地域ケア推進会議」にて、宮後中区の住民同士が話し合いを行ったことをきっかけに、「宮後中区は、買い物に困っている人が多いからなんとかせねば」との思いがそれぞれに広がり、「宮中買物支援事業協議会」が立ち上がりました。

話し合いを重ね、高齢者の引きこもり防止、孤立予防を目的に、毎月2回、社協の移送車両を活用し、市内の大型スーパーまで送迎する買い物支援「宮中いきいきショッピング」を行っています。



▲自分達で何ができるか、どのまでやるか話し合い



▲自宅の玄関から帰りも玄関まで送迎

買い物に行くことで生活にハリが

「宮中いきいきショッピング」の参加者から少し恥ずかしそうにこんな話がありました。

「実は、2日前くらいから買い物リストを作って、前日には、その日着る洋服を決めているのよ。買い物もそうだけど、みんなに会えるのが楽しみではない」と。



▲フードコートでおしゃべりする参加者



買い物後にフードコートで盛り上がる

スーパー内での送迎の集合場所は、フードコート。買い物が終わった参加者が徐々に集まってきます。ある時は、「その服いい色ね」と褒め合ったり、「息子に買ったもの半分くらい渡しちゃうの」と笑顔で話したり、またある時は、「匂いにつられて買っちゃったの」と焼き芋をみんなで分けて食べることも。

買い物だけではなく、参加者同士が会話する時間が生まれ、地域のつながりが生まれています。

社協職員が発見！

見守り機能の
キラッとポイント

スタッフの声から。

「横のつながりができた」



これまで仕事一筋で地域との関わりがあまりなかったスタッフのNさん。活動をお手伝いするようになって、参加者とのおしゃべりの中で、近所の人を知り、気になり始めることがあるそう。

ちょっとお手伝いをと始めた活動により、生まれたつながりによって、地域の情報・接点が増え、見守りの機能にもつながっています。

村久野

murakuno

みんなで作る・広げる居場所 だれもが活躍できる場を通じた地域のつながり



活動紹介動画
YouTubeで公開中

content

村久野区では、年を重ねても住み慣れた地元で暮らし続けられることを目指して、村久野区を中心に誰もが参加できる「コミュニティサロン☆むらっこ」を開催しています。

年を重ねても地元で暮らしたい

「周りの人も、自分も高齢になった時に地域で暮らし続けられるように、サロンを始めたい。」という地域住民からの相談をきっかけに、区長や老人クラブ会長、生活支援コーディネーター（社協職員）と打ち合わせを進め、村久野区で「コミュニティサロン☆むらっこ」の活動が始まりました。

福祉や健康のフコの協力のもと、講座や体操、音楽演奏会などを行い、小さなお子さんから高齢の方まで、誰もが参加できる場として開催しています。



▲作業療法士による簡単ストレッチ



▲赤ちゃんから高齢の方まで多世代の方が参加

だれもが活躍できる場

参加者の中には、読み聞かせや鼻笛やヨガなど様々な特技をお持ちの方も。実際に特技の披露や、講師としてレクチャーされることもあります。また、高齢世代から若い世代に、季節行事について教える場面もあり、だれもが役割を持って活躍しています。



▲スタッフ手作りグッズで季節行事



「支える」が「支えられる」に

代表者が体調を崩し、サロンを欠席をされた後に、参加者から「元気にしてた？大丈夫？」「今日は会えて嬉しいわ。」と声をかけられたそうです。「来てくれた参加者に元気で過ごしてほしい・周りのために始めたつもりだったけど、実は自分が元気をもらって、この場所・みんなに支えられていた。」と話がありました。

サロンの場をきっかけに、お互いに支え合う関係をつくることができています。

社協職員が発見！

見守り機能の
キラッとポイント

参加者の声から。

「関係が更に深くなった」



「楽しいよ、一緒に行こうよ。」と参加者の方がサロンにお誘いをすることで、周りの人に声をかけるきっかけになっているそうです。また、中には「元々知り合いだったけれど、実はサロンができるまで、こんな風にゆっくり話す機会はなかった。」との声がありました。

活動をきっかけに更に地域の関係が深まり、見守りの機能にもつながっています。

野白

nobaku

だれもが集いやすい場を目指して 興味・関心から広がる地域のつながり



活動紹介動画
YouTubeで公開中

content

野白区では、「サロン活動日に行けば、何かやってる！誰かに会える！」をコンセプトに、週に4回、曜日によって活動内容を変えながら「サロン野白」を開催しています。

だれもが集える場所を

野白区にて、地域包括支援センターの働きかけにより、認知症の方の支援について、ご家族や民生委員、老人クラブの会長など地域の関係者で話し合う機会がありました。その中で「認知症の方も地域で一緒に活動できる場があるといいな」という声があがり、「サロン野白」がオープンしました。

多くの方が、一緒に活動できるよう、月曜日は体操、火曜日は卓球と手芸、水曜日は健康麻雀、金曜日はグランドゴルフなど様々な活動が展開されています。

参加者みんなで活動後にお茶会をすることも。



▲活動後のお茶会「あの人が最近どうしてる？」



▲初心者から経験者までみんなで卓球

参加者の得意が活動の支えに

木工が得意な人が麻雀台を作ってくれたり、前に遠くにグランドゴルフに行っていた方がいるからと金曜日の活動にグランドゴルフを取り入れたり、様々な活動の裏には、参加者の得意が支えになっています。



◀ 習字が得意な参加者がサロンの活動周知ができればとポスターを作成！

手は動かさず、口が動く手芸活動

毎週火曜日の手芸活動は、それぞれが思い思いの作品を作っています。

作品展を開催したところ、毛糸で編んだ服やぬいぐるみ、粘土で作った置物、折り紙など、会場の壁に作品が所狭しと並びました。ある作成者からは、「ここで作ろうと思って持ってくるんだけど、進まないの。口しか動かない。けど、だからいいの。」との声がありました。

活動をきっかけに集い、会話が弾む場になっています。



▲みんなで同じものを作る日も（手芸）

社協職員が発見！

見守り機能の キラッとポイント

参加者の声から。

「顔見知りが増え、立ち話が増えた」

地域で知っている方がほとんどいなかったというSさん。「この人のお陰で、近隣の方のお顔と名前が一致して、お話しするようになったから、感謝している」と誘ってくれた方を支えながら家まで送る姿がありました。

2人の支え合う関係のみでなく、近所の顔見知りや話せる人が増え、見守りの機能にもつながっています。



今市場

imaichiba

想いをカタチへ オープンガーデン&お野菜マルシェを 通じたつながらり



活動紹介動画
YouTubeで公開中

content

今市場区では、有志の地域住民が定期的集まり「今市場で人とのつながる機会をつくる」をテーマにオープンガーデンやお野菜マルシェなどを行う「晴耕雨読F&G（ファーム&ガーデン）」があります。

1人の声からはじまった取り組み

「お庭を活用して何か活動できないか」という地域住民の一言からはじまった晴耕雨読F&G。

はじめは社協職員（生活支援コーディネーター）2人だけの話し合いでしたが「今市場の人と人とのつながりづくりをしたい」という想いを地域に発信する中で共感した地域住民が徐々に増えていきました。

自分のできることで協力する、をモットーに「お野菜マルシェ&オープンガーデン」を開催しました。四季のお花やお庭の畑から採りたての新鮮なお野菜販売など関係者を含め60名を超える参加がありました。



▲天気の良い日はお外で話し合い（ミーティング）



▲販売用の果物を袋詰め、できることで協力

得意なこと、好きなことで活動

今回のイベントを迎えるにあたり、晴耕雨読F&Gの協力者が自分の得意なことを活かして、それぞれの役割を担いながら活動していました。

力作業は苦手だけどお野菜を紹介することは得意、人とおしゃべりすることは得意など、できる人ができることに取り組んでいます。



▲お庭の花々を参加者へ案内している様子



お花とお野菜から生まれる会話

参加された方の中には足が不自由な方もいました。その方からは「最近では遠出することができなかつた。好きな花々を見る機会になってとても嬉しい」「次のシーズンまで健康でいなくちゃ」などの声がありました。

またお庭を見学したり、お野菜を販売している中で「久しぶり、元気だった」「あれ、どこかでお会いしたことありますよね」などと活動を通じて参加者や関係者の間で会話が生まれました。

社協職員が発見！

見守り機能の
キラッとポイント

スタッフの声から。

「イベントを通じて人がつながる」



定期的に行う晴耕雨読F&Gのミーティングでは協力者同士で「今市場に関する情報」や「最近の地域の出来事」など雑談を交えながら情報共有しています。代表から「この取り組みを通じて様々な分野の方とつながる機会になった」と声が。

イベントを通じて、地域住民と顔の見える関係づくりにもつながっており、見守りの機能にも影響しています。

地域の見守り冊子 Vo.1+2 ～見守りにつながる地域の取り組み～

発行日：令和7年3月

発行 **KONAN**
SHAKYO

社 会 福 祉 法 人 社 会 福 祉 協 議 会
江 南 市 社 会 福 祉 協 議 会

☎ **0587-55-5262**
🌐 <https://www.konan-shakyo.or.jp>

